

営業職生かし後継者に
～涌谷町 野菜苗の生産・販売～



「野菜苗と言えば宮城県涌谷町の西山と認めてもらえるようになりたい」と昨年に町で認定新規就農者となり、野菜苗の生産と販売をしている西山貴敬さん（33歳）は話す。

西山さんは、就農前に車の整備と営業をしていたが、仕事で一人前と言われるようになった頃、野菜苗の生産と販売していた妻の実家の両親から「規模を縮小したいが、野菜苗栽培を辞めないで欲しいと取引先から言われている」と相談を受け、農業後継者になることを決意。

しかし、全く苗栽培の経験がなかったため、1年間は休日に親元で栽培について学んだ。その後、(株)渡辺採種場で2年間の栽培研修を受け、現在はハウス13棟で、ナス苗やトマト苗など年間約12万鉢の苗を栽培している。

「天候に左右されるため、苗の生育を一定に揃える事は大変だが、自ら足を運んで行う苗販売で営業職時代の経験が生きている。自分で作った物を自ら販売する楽しさやお客様に良い苗ですねと言ってもらえる時がなにより嬉しいと感じている」と語る。

今後は「作付け本数を100万鉢に増やしつつ、苗を売るだけでなく、その後のアフターフォローもしていきたい」と意気込む。

【記事提供：涌谷町農業委員会】